

手外科領域の疾患

腱鞘炎（ばね指、ドケルバン病）

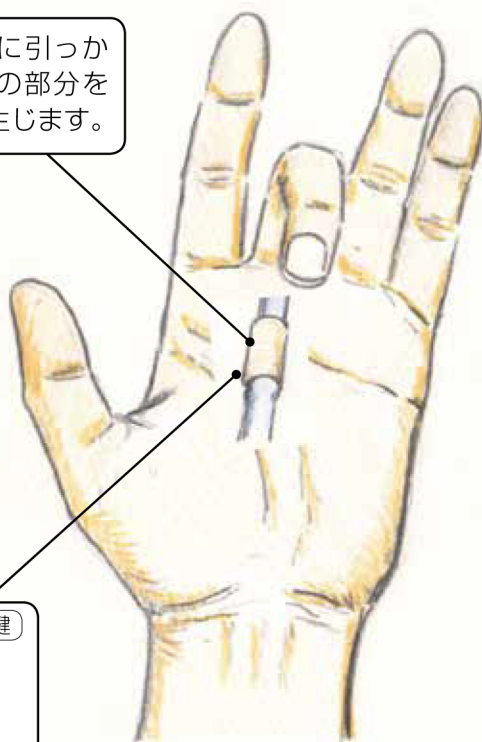
今回は腱鞘炎について紹介します。手の腱鞘炎でもっとも起こしやすいのは、指を曲げる屈筋腱の腱鞘炎で、ばね指と呼ばれます。指を曲げる屈筋腱は腱鞘と呼ばれるトンネル様の中を通過します。さまざまな

理由で、腱、もしくは腱鞘が腫れることで、指の曲げ伸ばしにおいて、引っかかりが生じます。また、指の付け根の手のひら側を押すと痛みを感じます。少し前までは手術を行うことが

多かった疾患ですが、最近は効果のあるステロイドが出てきたので、それを注射することで劇的な改善が見込めます。注射でよくならない場合には手術が必要になります。1cmほどの切開で、入院の必要ありません。腱鞘を切離することで、腱の滑走がよくなり症状が改善されます。

整形外科部長兼手術部長 中村 恒一

指がこのような引っかかりがあったり、この部分を押すと痛みが生じます。



屈筋腱の腱鞘炎、腱鞘の肥厚による滑走障害が原因です。

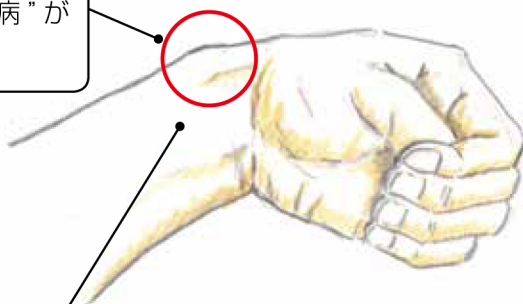


腱鞘を切開することで、滑走がよくなり、痛みもなくなります。

親指を握り、手首を小指側に曲げるとこの部分に痛みが生じる場合は“ドケルバン病”が疑われます。



手術は腱鞘を切開します。



腱鞘炎。腱鞘の肥厚により、腱と腱鞘の滑走が障害されます。

同様に、親指を伸ばしたり、広げたりする腱（短母指伸筋腱、長母指外転筋）も腱鞘炎を起こしやすく、親指付け根背側の痛みを引き起こします。ドケルバン病と呼ばれる疾患です。図のように親指を握った状態で、小指側に手首を曲がると痛みが誘発されます。妊娠時、産後、更年期の女性に多く見られます。最近はパソコン作業でも多いようです。ばね指と同様に腱鞘内のステロイド注射がよく効きます。手術もばね指と同様に、腱鞘の切開になります。小さなキズで、入院の必要はありません。

このような症状がありましたら、お気軽に整形外科外来を受診してください。